

学校現場での関わりの中で教師としての成長を図る若年研修

三豊市立仁尾小学校 教諭 高橋 夏子

I 課題設定の理由と目的

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」が求められる中、教員にも主体的に学ぶ姿勢が求められるようになった。しかし、本校において、学校規模の縮小に伴う人員配置の減少と若年層の増加により、若年教員においても学校の中心的な分掌を担うようになってきており、校務の業務に追われる中で自己研鑽を意識する余裕がなくなっているように見受けられた。そこで、子どもや保護者、同僚と関わる日常にこそ教師の成長はあるのではないかと考え、「意図的に日々の実践に取り組む中で学びを積み重ねる若年研修の仕組み作り」を目的とした研究を行った。本研究において「意図的に日々の実践に取り組む」とは、①具体的な目標の把握と②具体的な課題意識をもった実践とした。その手段として、「学びの言語化」と「先輩教員から学ぶ機会の設定」を実施した。

II 研究の具体

【1年次の研究】経験年数1年目～6年目の教諭4名、講師2名対象

1. 方法

- ・学びの言語化………学んだことを書き加えるシート（図1）とリフレクションシートの作成
- ・先輩教員からの学び……メンターの設定

2. 結果と考察

各シートにおいて学びを言語化し、内面を表出したことにより、個々の内省を促し、次の課題を具体化・焦点化することに効果を感じた若年教員が多かった。一方で、記述内容を分析することで、教員として成長する段階が見えてきた。また、メンターを設定したことは、双方に内省を促し、日々の実践への課題意識を高めるとともに、若年教員に心理的な安心感をもたらす効果があることも示された。ただ、メンタリングをOJTの中で効果的に実施していくためには、より、分掌上近い関係のペアを組む必要があると考える。



図1 中心に目標を書き、それに関する学びを書き込む

【2年次の研究】経験年数3年以下の教諭2名、講師1名対象

1. 方法

- ・学びの言語化………学んだことを振り返るシート（図1）の作成
- ・先輩教員からの学び……授業公開ウィークの設定

2. 結果と考察

2年次は、経験年数が3年以下の教員が、学習指導と生徒指導において目標とする授業観や児童観等をより具体化・焦点化することを目的として研究を実施した。

授業公開ウィークとは、教員が1週間に1人ずつ週案を公開し、他の教員が空き時間等に授業を参観する取り組みである。授業参観後には、意見・感想等をカードに書いて授業者に送った。参加した教員同士、授業について、また、個々の子どもの成長や関わり方について話し合う機会となっている。

1学期は、ミドル世代の教員（4名）による授業公開ウィークを実施し、その金曜日に、若年教員（3名）が先輩教員（4名程度）に質問をする形で若年研修（喫茶わかば）を行った。発問の仕方や学習課題の設定の仕方、褒めて高める学習規律の作り方など、若年教員は授業を参観して学んだことや普段課題に思っていることを質問した。それにする先輩教員からの回答では、一つ一つのケースに対する助言だけでなく、授業においては教材研究から目標を絞り込むことの大切さや、常に根底に児童理解があることなど、教育観に関わる内容が語られた。

2学期からは、若年教員の授業公開を行っている。研究発表会の授業者と初任者は、校内研修に位置づけられた時間での授業公開を実施し、1名が授業公開ウィークを実施した。様々な指導・助言を管理職や先輩教員から受け、自身を振り返る機会となっている。

夏休みにシートを作成する際、一度、自分が理想とする学習指導と生徒指導の目標を立てた。1学期に先輩教員から学んだこととつないで目標を設定している教員もいた。また、冬休みに2回目のシートを作成し、1学期に比べ、より具体的な目標を設定することができた。先輩教員の授業を参観したり、自分の授業を公開したりした後、先輩教員との対話の中でより内省を促し、目標が具体化されたと考える。